

平成30年度学校自己評価システムシート（埼玉県立越谷北高等学校）

目指す学校像	生徒の夢を志に変え、進路実績をさらに伸ばすとともに、高い理想と豊かな人間性を兼ね備えたグローバルなリーダーを育成する。
--------	---

重点目標	1 生徒の第一志望を実現させ、卒業後も広い視野を持って活躍できる北高生を育成する。 2 高い向上心と規範意識を有し、品格ある逞しい北高生を育成する。 3 創立50周年を契機として、積極的な情報発信を行い、信頼される北高作りを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		実 施 日 平 成 年 月 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	誠 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価
1	【現状】 生徒の主体的な学びを組織的に進め、学力を向上させる授業改善が始まっている。進路指導では、生徒が第一志望を諦めない指導を実践している。理数科では、高い志と課題発見力が育成されつつある。 【課題】 生徒の第一志望を実現するため、より高い志を持たせ、主体的・対話的な深い学びを推進し、思考力・判断力・表現力を高める必要がある。SSH事業の指定を受け、全校体制で生徒の課題発見力の育成を推進する。	○ 生徒の主体的な学習を組織的に推進し、学力を一層向上させる授業改善	① 学習指導委員会やSSH推進委員会を中心に、教科・学年・分掌が連携し、主体的な学習活動を支援する授業改善を進める。 ② 新しい北高ダイアリー等を活用し、家庭学習の時間を増やす。 ③ 思考力・判断力・表現力を高めるため、アクティブラーニング等の主体的な学びの授業を推進する。	① 学校評価アンケートの学習指導体制の生徒満足度を90%以上 校内研修の充実や外部機関の研修会等の参加状況。 ② 家庭学習時間が昨年度より増加したか。 ③ 授業評価アンケート「意欲的に参加した」及び「学び合いの場面がある」の割合を各々80%、60%以上。 SSHアンケート（理数科及び1年生）の主体的対話的学習について年度当初より積極的に取組めたか。				学校関係者からの意見・要望・評価
		○ 生徒に高い志を持たせ、第一志望を実現させる進路指導	① SSH事業や進路行事、県指定事業等の活用により高い志を育成する。 ② 進学講習や補習の内容を研究し、一層の充実を図り、多様な生徒のニーズに対応した講習を行う。	① 第一志望校（6月時点）の合格率を40%以上。 難関国立大合格者数（10名）、国立大合格者数（90名）、難関私立大合格者数（80件）、準難関私立大合格者数（270件）以上。 ② 進学講習の参加者数				
		○ SSH事業を活用し、高い志と課題発見力を有する生徒の育成	① SSH推進委員会を中心に、全校体制でSSH事業を推進する。 ② 様々な組織・機関と連携し、高い志と課題発見力の育成を図る。	① 教科間連携のシラバスを作成し、クロスカリキュラムが見える化できたか 教科間連携が実施できたか。 来年度に向けたルーブリック評価等の作成ができたか。 ② 研究成果発表会や地域と連携、各種コンテスト等に参加したか。 生徒の志を高める講演会が実施できたか。				
2	【現状】 規範意識と高いリーダーシップを有する生徒が育成されつつある。 【課題】 高い規範意識と品格を有する次世代のリーダーを育成する。	○ 正しい倫理観と品格の育成	① 挨拶、整容、自転車等を含む登下校のマナーや情報通信のモラル等について、自ら判断し改善できる力を養う。	① 生徒・保護者の生徒指導満足度90%以上にする。				学校関係者からの意見・要望・評価
		○ リーダーとして活躍できる生徒の育成	① 部活動や学校行事、各種事業等の多様な活動により、北高生の指導力・共感力を高め豊かな人間性を有するリーダーを育成する。	① 部活動入部率95%維持し、生徒会・部活動の地域連携参加25件以上、学校行事の生徒満足度95%以上。				
3	【現状】 本校の教育活動が積極的に情報発信されている。PTAや地域等との連携も順調である。 【課題】 創立50周年事業をPTA・後援会等と協力して運営し、本校の教育活動を更に発展をさせる。	○ 多様な方法による教育活動の情報発信	① ホームページ、土曜授業公開、学校説明会、教育機関への説明会、SSH事業等を活用し、丁寧に迅速な情報提供を行う。	① 志願倍率を増加させる。 土曜授業参加者数とアンケートの回答及び、学校評価アンケートの土曜授業満足度生徒70%以上、保護者90%以上にする。				学校関係者からの意見・要望・評価
		○ 創立50周年事業を通じた、PTAと後援会地域との連携	① 創立50周年事業運営委員会を中心にPTA、後援会同窓会と綿密な連携を図り、秋の50周年事業を円滑に運営する。	① PTA活動の満足度95%以上。 50周年事業がPTA、後援会、同窓会との協力体制の下、円滑に行われたか。				